

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

◎信仰的学びの機会を増やす。

◎礼拝の充実を目指す。

◎地域との交流促進。

聖語 いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。(Iテサロニケ5:16-18)

キリスト者の希望

～教会暦年の最後の月にあたって～

神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。(ヨハネの黙示録21:3-4)

司祭 ミカエル 小南 晃

教会問答における最後の問答は次のような内容になっています。

34.問 キリスト者の希望は何ですか。

答 すでに始められ、キリストの再臨によって完成される神の国です。神はこれを全人類のために備えておられます。

私たちはこの希望について、使徒信経では「そこから主は生きている人と死んだ人を審くために来られます」、またニケヤ信経では「また、生きている人と死んだ人とを審くため、栄光のうちに再び来られます」と信仰告白しています。

メメント・モリ

11月は教会にとっての逝去者記念の季節です。この時に私たちは天に召された兄弟姉妹の主にある光明と平安を祈るとともに、私たち自身が天に国籍を持つ者として、信仰の先達にならってこの世の馳せ場を走ることに決意を新たにします。

こうしたキリスト教における逝去者記念のモットーとも言うべき言葉は「メメント・モリ、死を覚えよ」です。これは暗く不吉な絶望的な嘆きでも、また「どうせ死ぬ身なのだから、今を楽しめ」と言った刹那的な生き方へと誘う言葉でもありません。「残された日々を数える

ことを教え、知恵の心を与えてください(詩90:12)」という、今という時を無駄にすることなく積極的に生きることを促す言葉です。

しかし「死を覚える」ことが、このような積極的姿勢を生む前提としては、まず私たちには、主イエス・キリストを通して与えられた永遠の命に対する希望と感謝と喜びがなければなりません。

教会暦年の最後の月

ところで11月は教会にとってもう一つ意味があります。それは一般のカレンダーより一足早く、教会の暦の一年の最後の月を迎えているということです。

そしてこの教会暦年の最終主日には「主イエス・キリストが王の王、主の主としてあらゆるものを回復されること」を覚えて、そこに希望を置いて祈りをささげます。即ち、この世の終りの時、再臨の主キリストに思いを馳せるといことです。

先に申した「メメント・モリ」とは、どちらかと言えば、個人的な人生の終りまでを見渡して、今の時を大切に生きようとすると言えぬのではないかと思います。

一方、再臨の主に思いを馳せるとは、世界、それどころか宇宙全体

の終りまでを見渡すということなのです。そしてその先に神が用意して下さっている神の国に対する希望に根差して、今、私たちに主から託されている使命に生きようとすると言えぬのではないのでしょうか。

私たちが抱くべき希望としては、そのどちらかが大切であり、そして今月はその両方に思いを馳せる時と言えます。

キリスト者の希望を新たに

主キリストの再臨に思いを馳せるということ、これは壮大極まりない視野の中で自分自身や世界を見つめ直すことです。そしてキリスト教の宣教は初代教会の使徒の時代から、この視点に立ってなされて来たのでした。

冒頭の聖書の言葉、「人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない」は、個人の人生における救いと慰めの言葉です。しかし同時に主キリストの再臨による究極の救い、神の国の到来に目を向けさせる言葉でもあります。

私たちの信仰は、ともすれば「個人的な人生における救い」に比重がかかり、いつしか私たちが本来抱き続けるべき「キリストの再臨によって完成される神の国への希望」が希薄になっているということはないのでしょうか。

この教会暦年の1年の最後の時にあたって、共にこの希望をさらに新たにすることが出来れば幸いに思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)